

遊育推進事業

「遊び場」報告書



01 概要

これまでの取り組みとの関連

今回 11 月安平町追分にオープンしたコミュニティスペース「ENTRANCE」に停留型「遊び場」を提供することとなった。現在、遊び場を提供して約 1 週間 (1/12 現在) となる。これまで、延 139 名 (幼児 48 名、小学 91 名) がきている。

02 環境と場作り

「遊び場」では、子どもが自由な発想で、自分なりの遊びを作り出す事ができる場作りを大切にしている。子どもが自発的に動いていくための仕掛けとして、以下のような工夫が行われている。

1. 道具

遊び場にある道具は以下のとおり

- 段ボール ○画用紙
- クレヨン ○色鉛筆 ○はさみ ○テープ
- 折り紙 ○粘土 ○木材

子どもたちが自由に選び、好きな工作を行えるよう準備している。



※道具は、子どもが自分で取り出し片付けしやすいように表示や高さを調整している。

(2) 声かけ

子どもが自発的に自ら進んで動いていけるよう、スタッフの声かけは重要である。

○子どもが作った作品に対して、結果よりも作る過程を褒める

(例→「この色はなんで使ったのかな?」「この素材を使ったのはいいね!」)

○作りたいものがあつた場合、同じ目線となり話を受け止めていく

(例→「いいね、そのアイデア」「他にもどんな方法があるかな」)

03 子どもの遊び例

※これまで活動している中ででた遊び方について紹介

① ごっこ遊び

段ボールを使って、「通貨」ができた。この通貨は銀行でもらうことができる。この通貨は、段ボールでできた「ラーメン屋」「温泉」で使うことができる。

この遊び場の中で、「子どもの社会」が生まれた。



② むりえ、お絵かき



③ 道具を使った遊び

